保存版

# キエーロ ハンドブック

～ キエーロを上手に使って、生ごみを減らしましょう！ ～

愛川町 環境課

# 目　次


○　キエーロの設置の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

○　スタート前の準備　①備品の購入　・・・・・・・・・・・・1

○　スタート前の準備　②埋め穴のの設定　・・・・・・・・・2

○　失敗しないための４つの基本（掘る・投入）　・・・・・2

○　失敗しないための４つの基本（混ぜる・フタ）　・・・・3

○　バクテリアくんの好き嫌いリスト　・・・・・・・・・・・4

○　Ｑ＆Ａ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

○　冬を乗り越える５つのテクニック　・・・・・・・・・・・5

○　キエーロトラブル解決シート　・・・・・・・・・・・・・6

あいちゃん © 愛川町


ご質問やトラブルなどございましたら環境課までご相談ください。
愛川町環境課 電話２８５－２１１１（代）　内線３５１３
メールアドレス　kankyo@town.aikawa.kanagawa.jp

# キエーロの設置方法

土の表面が乾いていることで臭いや虫の発生が抑えられます。設置する際には、日当たりと風通しが確保できる場所を選びましょう。

土中のバクテリアが生ごみを分解します。バクテリアは太陽の光と酸素が大好き。最低でも２～３時間以上の日当たりを必要とし、日が当たれば当たるほど分解能力が高くなります。

直置きタイプ

ベランダタイプ

ベランダタイプを土の上に設置する場合には、脚が沈み込んで底板が直接土に触れることが無いようにレンガなどの敷石をしてください。

直置きタイプは地面の小石や雑草、木の根などをきれいに取り除き、表面の土をやわらかくほぐしてから設置してください。
ほぐしておくことで作業しやすく分解がスムーズになります。

**表面をほぐしてから黒土を入れてね！**

# スタート前の準備①備品の購入

スタート前に備品の準備をしましょう。
まず、土(黒土)とシャベル、生ごみをためるフタ付き容器を用意します。

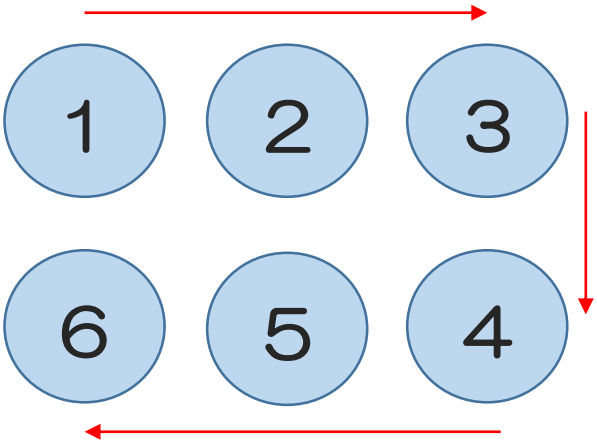
土は市販の黒土（腐葉土・培養土は不向）がおすすめ。粘土質や砂の多い土は適しません。

準備する土の量は直置きタイプ、ベランダタイプともに約１００リットル（14 リットル入り８袋）です。

シャベルは片手で扱う移植ごてタイプのものではなく、両手で使えて作業性のよい柄の長い小ぶりなシャベルを用意しましょう。

# スタート前の準備②埋め穴の設定

あらかじめ生ごみを埋める穴の数を想定しておきましょう。
順番を間違えないように、作業を終えたら目印を置いておくのもグッド！




ベランダタイプなら３ヵ所程度、直置きタイプなら６ヵ所程度の埋め穴の想定が可能です。（生ごみの量に応じて調整してください）順番に埋める場所を変えて、これを繰り返します。一巡して元に戻るころには最初の生ごみは分解され、消えてしまいます（灰色の塊になったらＯＫ）。

# 失敗しないための4つの基本

## ①「深さ 20cm ぐらいの穴を掘ります」

20cm ぐらいの深さが最もバクテリアの働きがよい場所になります。

掘る

投入

## ②「生ごみを投入」

生ごみは毎日投入せず、フタ付の容器にためて4～5日に1回を目安に投入します。
（廃食用油や米ぬかの投入もこの段階です）

## ③「生ごみと土の見分けがつかなくなるまでシャベルでザクザク混ぜる」

生ごみをザクザクと出来る限り小さく砕きながら、土をよく絡めるように混ぜます。土や生ごみが乾燥して絡みづらい場合は、適量の水分を加えて混ぜてください。（水分の入れすぎには注意しましょう）

## ④「乾いた土をたっぷりかけてフタをする」

最後に、乾いた土で穴を埋め戻します。表面の土が湿っていると、臭いが上がってきて虫を呼び寄せてしまいます。表面の土は常に乾いた状態を保ってください。

### ご注意

１回の生ごみ投入量はベランダタイプで三角コーナー１杯(約 500g)程度、直置きタイプで 1.5 杯(約 800g)程度にしてください。

分解には夏場で４～５日、冬は２～３週間を要しますので、分解状況に応じて投入量や頻度を調整してください。

# バクテリアくんの好き嫌いリスト

大好き

・痛んだ野菜　・痛んだ果物　・火や湯を通した野菜　・火や湯を通した果物
・魚の内臓・煮汁　・生肉・脂身　・ラーメン、みそ汁、カレーなどの調理品の残り物
・痛んだ弁当や残飯、デザートなど　・期限切れのジャム、バター、塩辛、菓子
・食用油（廃食油）　・飲み残しのお酒　・ジュース　・残った揚げ物　・もみがら、米ぬか

・刻んである野菜くず　・くだもの（果肉）　・じゃがいもなどの野菜の皮
・ナシ、リンゴ、ブドウなどの果物の皮　・火を通した魚や肉　・パン　・ご飯　・麺類
・お茶がら、コーヒーかす　・エビの殻

・レモンやグレープフルーツなどのかんきつ類の皮　・とうもろこしの芯　・たまねぎの皮
・枝豆のサヤ　・スイカの皮　・冬瓜の皮　・キャベツなど野菜の芯
・ごぼう、人参などの根菜類　・ブロッコリーの太い茎　・昆布　・魚の大きな頭や小骨
・たまごの殻　・カニの殻

・貝殻　・鶏の骨　・タケノコの皮　・トウモロコシの皮　・栗の皮　・カボチャの種
・梅干の種　・アボガドの種　・ゴーヤの種　・モモの種　・魚の大きな骨
・わさびなど殺菌力のあるもの

嫌い

## Q&A

**Q1. 使っていくうちに土の量は増えていかないの？**

A. 生ごみはエネルギー物質や二酸化炭素などに分解されてしまうので、土の増減はほとんどありません。

**Q2. 黒土の代わりに腐葉土や培養土は使えないの？**

A. 腐葉土や培養土はバクテリアの密度が低く分解能力が落ちるので生ごみ処理には向いていません。市販の場合、堆肥成分等を含まない安価なもので大丈夫です。

**Q3. 生ごみが消えないんだけど・・・**

A. 生ごみと土をよく混ぜていますか？また、使い始めや気温の低い季節はバクテリアの活性が低く分解に時間がかかります。そんな時は米ぬかや廃食油を一緒に混ぜると分解が早くなります。

**Q4. コロコロの土の塊が残っていてもいいの？**

A. 2～3週間すると、生ごみはコロコロした白っぽい灰色の塊に変わります。これは分解がうまくいっている証拠。塊はそのままにせず切り崩して埋めましょう。次の生ごみを一緒に入れても大丈夫です。

**Q5. 虫がたくさん発生しているんだけど・・・**

A. 分解していない生ごみに発生しています。その場で生ごみと土を混ぜ（表面に近ければ少しだけ深く埋め直し）、上から乾いた土をかけて放置してください。生ごみが分解されれば虫も死滅します。虫が死滅するまでは生ごみの投入は控えましょう。

**Q6. 熱湯で虫はいなくなるの？**

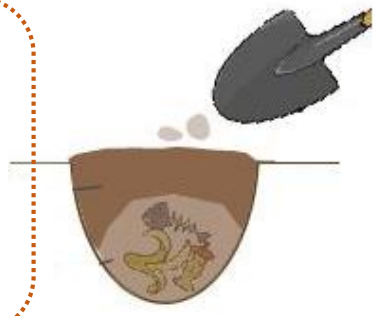
A. 熱湯をかけて退治することはできますが、かけすぎると土がドロドロになり修復に時間がかかるので注意しましょう。虫が発生する原因はいくつかあります。一度、環境課までご相談ください。

# 冬を乗り越える5つのテクニック

**気温の低い冬はバクテリアの活動も鈍く、分解が遅くなります。**
**寒い冬を乗り越えて、快適なキエーロライフを送るには…**

## 冬テク1 いつもより土をよく混ぜるのが基本

冬は土も冷えてかたくなりがち！ 分解中の塊をほぐすだけでなく、シャベルを刺すようにして全体的に空気を入れ、ふかふかの土を保つことが大切です。生ごみの分解がすべて終わった頃を見計らい、一度底のほうから掘り返してみましょう。空気の入った土はやわらかく作業もラク。分解も早まります。新たに生ごみを投入したら、生ごみが表面に出ていないかのチェックも忘れずに!



## 冬テク2 いつもより長めにためる

野菜くずなどバクテリアの苦手なものはフタ付の容器にいつもより長めにためておくと分解しやすい状態になります。屋内に置いていても臭いが気になりにくい冬ならではのコツ。分解しやすい肉や魚は早めに埋めて、野菜類は長めにためてから埋めると良いでしょう。

## 冬テク3 使い終わった油が分解を早める

使い終わった食用油はバクテリアの働きを活発にし分解を早めます。廃食用油を容器に取っておいて、野菜くずをたくさん埋めるときなどに一緒に混ぜると効果的です。

## 冬テク4 生の野菜くずは小さく or 熱を通す

特に時間がかかるのが生の野菜くず。小さくきざむか、調理時に出た下ゆでの残り湯にしばらくつけておく。または、使い終わったフライパンに水を足し、余熱を利用して軽く火を通すのも◎。マメな方にはおすすめの方法です。

## 冬テク5 埋めるものと、もやすごみに出すものを分ける

「工夫しているのに消えるのが遅い…」。そんなときはムリして全量埋めるのではなく、いくらかはごみの収集に出すのも手。分解しにくいもの（前ページの好き嫌いリスト参照）はもやすごみの収集に出し、魚や肉など分解しやすいものを中心に埋めるなど、キエーロに無理をさせないのも上手に使うコツです。

あいちゃん © 愛川町

**●○● 生ごみは土の温度を上げる ○●○**

**生ごみの分解中は土の温度が10～20度ほど高くなりますが、埋めるのをやめると土の温度は下がってしまいます。少しずつでも継続的に生ごみを入れたほうが土の中の温度が保たれ、順調に分解を続けることができます。**

# キエーロ　トラブル解決シート

| 原因 | | | 対策 | 緊急的対応 |
|---|---|---|---|---|
| 虫が発生した | コバエ | 生ごみが表面に出ていませんか？<br>生ごみが浅いところに埋まっていませんか？ | 虫が寄ってくる臭いの原因になります。深さ２０cmのところに埋めなおしましょう。 | 殺虫剤を使用しても分解には影響ありません。 |
| | | 土の表面が湿っていませんか？ | 中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜ入れながら生ごみを分解しきってしまいましょう。 | |
| | ミズアブの幼虫 | 生ごみが土と混ざらずに塊になっていませんか？ | 土と混ぜ合わせなければ生ごみの分解が進まず、臭いの原因となって成虫が卵を産みにやってきます。埋める際にはよく土と生ごみを混ぜましょう。 | 土をかぶせて放置します。生ごみが分解されれば死滅します。また、熱湯を少量かけて退治することもできますが、水分量に気をつけましょう。 |
| | | 生ごみが表面に出ていませんか？ | 虫が卵を産みに寄ってくる臭いの原因となります。しっかり中に埋めましょう。 | |
| 臭いがする | 掘り起こすと臭う | 中で土が固まっていませんか？ | 空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。 | 乾いた土を表面にかぶせると臭いが緩和されます。 |
| | | 中が水分でべちょべちょになっていませんか？ | 水分が多すぎです。乾いた土と混ぜ合わせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。 | |
| | | 生ごみが多すぎませんか？ | 生ごみは500ｇ～800ｇを４～５日に１度程度投入できます。入れすぎると分解が追いつかなくなり、臭いや虫の原因となります。分解しやすいものだけにするなど投入日や量を減らしましょう。 | |
| | | 魚の内臓など臭いの強い生ごみを入れましたか？ | 分解途中は掘り起こすと臭いがします。分解されるまで掘り起こさないようにしましょう。 | |
| | 表面が臭う | 土の表面が湿っていませんか？ | 中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜ入れながら生ごみを分解しきってしまいましょう。 | |
| | | 生ごみが浅いところに埋まっていませんか？ | 少し深めに埋めなおすか、上に乾いた土をかぶせましょう。 | |
| 生ごみが消えない | 生ごみと土をよく混ぜていますか？ | | 穴に生ごみを入れ、土をかぶせるだけでは分解が進まず、虫や臭いの発生の原因にもなります。生ごみと土をよく混ぜ合わせることで分解しやすくなるので、生ごみを入れたら土と一緒にシャベルでザクザク！してから土をかぶせてください。 | |
| | 使い始めて間もないですか？ | | 初めはバクテリアが少ないので分解に時間がかかりますが、生ごみの投入を続けるうちに分解が進むようになります。 | |
| | 野菜が残っていることが多いですか？ | | 野菜（主に皮や芯）は分解に時間がかかりますが、いずれ分解されます。次の生ごみを一緒に埋めて大丈夫です。乾燥した野菜くずが多いときは適量の水分や廃食用油を加えると分解しやすくなります。（水は入れすぎないよう注意してください。） | |
| | 中がどろどろで生ごみが全体的に残っていますか？ | | 水分が多すぎです。乾いた土と混ぜ合わせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。 | |
| | 底のほうで土といっしょに固くなっていますか？ | | 空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。 | |
| | 白っぽい土の塊になっていますか？ | | 白っぽいカビのようなものは分解が進んでいることを表しています。シャベルで塊を砕いておけば完全に分解されるので、次の生ごみも一緒に埋めて問題ありません。 | |
| | 気温が下がってきていませんか？ | | 寒くなって気温が下がると分解が遅くなります。裏面の冬の対策をご覧ください。 | |